

Main racing program table with columns for race numbers (1-16), race names, participants, odds, and results. Includes a detailed table for the 55km+ race (Race 16) and a table for the 54km race (Race 15).

55キロ以上(26432)
表面上の実績でハンデが決まるため、2歳重賞馬などが重ハンデで凡走しやすいため、トップハンデは56・5キロのアンビシヤス。成績や能力から低いが、小回りで距離は初体験、合つかうかが鍵。デビュー1杯2歳Sのレースレベルは低い。グリュイエールの重賞実績はきさきやエール。なかかつ50万勝ちが平地で55キロと力がある。ただし、折れ合いに苦労してきた馬。距離延長は微妙。ミニセゾンは2勝+オナー4回の中山二千を好タイムで勝っている点が高い。アンビシヤスは東京で連勝したが、小回りで得意のステイゴー

は低いが、小回りで距離は初体験、合つかうかが鍵。デビュー1杯2歳Sのレースレベルは低い。グリュイエールの重賞実績はきさきやエール。なかかつ50万勝ちが平地で55キロと力がある。ただし、折れ合いに苦労してきた馬。距離延長は微妙。ミニセゾンは2勝+オナー4回の中山二千を好タイムで勝っている点が高い。アンビシヤスは東京で連勝したが、小回りで得意のステイゴー

暖かくなってグングン調子を上げてきたグランアルマダ。開幕週の福島千八は理想の舞台とみて、中心に期待。前走は1F短い同日マーメイドSをハロン・ラップで上回る、ハイレベル決着の②着。千八通過1分47秒2のハイペースを、早め先頭で粘り抜いた。復活なったロジチャリス、素質抜群のレアリスタが相手。【上位拮抗】

「好走可」
東田助手今週の追い切りも仕掛けてからの反応が抜群で、抜けてくる脚が速かった。以前より切れを増している。他とのハンデ差がどうかだけ。【押さえて】
橋口弘師トモに疲れが見られる。立て直して本来の状態を取り戻している。斤量差はあるが、距離は大丈夫。見直したい。【好走可】
橋本助手「精神的なもので、か、

本紙の見解
前走価値あるアルマダ
馬単
1着 11 16
2着 3 4 5
3着 3 4 5
3連複
1着 11 16
2着 3 4 5
3着 3 4 5
平均ペーシ





大川浩史

これぞ編集長の爪

0秒3差に意味はないが... 勝率5割未満で首位という低レベル大混戦のセ・リーグでは「首位と○ゲーム差」という表現にあまり意味がない。

という評価は意味がない。②着ヴァンセンヌは安田記念も②着だったが、0秒1差⑤着ダンスアミーガは次走1600万で1番人気⑭着。0秒2差⑥着サトノルバンは次走オーブン特別で2番人気⑧着。

馬主さんならだれでも夢見る自分の所有馬同士の、それもチャンピオンホースだけの血を集めたのがグリユイエールなのである。アンピシヤスの母は、その父エルコンドルパサーも、祖母の父レインボウクウェストも凱旋門賞の快走馬。パワーと底力のヨーロッパタイプである。

ともハンデ戦のCBC賞も福島ラジオNIKKEI賞も好配当必至の好カードだが、レース直前の「馬場状態」は、そのときでないと分からないほど天候は変化している。福島の雨が雨の影響は少ないことを期待して、ディーブインパクト産駒の、

アンピシヤス

グリユイエール

に期待する。伏兵グリユイエールは、先週の宝塚記念で①②着独占を決めた金子真人オーナーの所有馬。それもオーナーブリーダーに近い血統背景を秘めている。母は未出走馬だが、その母ミスパスカリは、金子オーナーのクローネの半妹。

ゲームの世界ではない。ドバイのモハメド殿下も、欧州の大オーナーも、ここまではやりたくてもできない。完全な金子ブランドの結晶である。母にはミスターブロスベクタ

発見馬



小木曾大祐

今週から出張生活。体力・財布ともに厳しくなるため、いつも以上に負けられない戦いが始まります。まずは障害戦から④Rのトキノアイチヨ。前2走、飛越の上達が目立っています。肝心な勝負どころで前がさげば、仕掛け遅れの競馬。着順・着差以上に見どころがあり、今度こその一戦です。

大きな体を目一杯に使い、迫力満点の動き。小回り向きではありませんが、ここでは器が違いう存在。通過点と想っています。⑨Rは初勝利が強い勝ち方だったバルビエール。このクラスでは素質上位の存在。重賞挑戦とダートの前走は度外視、立て直し、改めて狙い撃ちします。

【バックナンバーの問い合わせ】中央・公営版ともに電話(03)349314916、営業部あて。なお、バックナンバーは一部二百円、数に限りがあり、売り切れの場合は御容赦下さい。

競馬人情吉川良

オグリキャップが生涯を閉じた優勝スタリオンの前、イタリヤ料理店Angeloで苦小牧に住む友だちと待ち合わせる。「山の中を通って行こうよ」とハンドルを握る友だちは70歳。5年前に、40年に渡る牧場の仕事から離れた。

「佐々木牧場」という看板を通りすぎる。「佐々木さんって、昔、強い馬を出したよね」「たしか、キタノカチドキ」「そう、コーネルランサーのダービーで3着」そんな会話をしながら私が競馬手帳をひらき、「昭和49年。1974年」

Table with 2 columns: Year (e.g., 17年, 18年) and Race Name/Result (e.g., ラジオNIK賞, タマモサポート, 500万1).

Table with 2 columns: Year (e.g., 18年, 19年) and Race Name/Result (e.g., ハンデ56キロ上の成績, トウショウシュロッコ, 500万5).

Table with 2 columns: Year (e.g., 26年, 25年) and Race Name/Result (e.g., ショウナンワダチ, フラムドローラ, 5656).

と云ったとき、車の前にキタキツネがいた。車が日高町広富を走る。「原口牧場がここ」「ミホノブルボン」「おれ、原口圭二さんと、トウショウ牧場で一緒だった。トウショウボーイを馬車で、初めて保田隆芳厩舎に連れて行ったのが原口圭二さん」と友だちが言う。ミホノブルボンのダービーは1992年。平取町に車が入って、トウカイテイオーが放牧にきていた二風谷育成センターを通過。友だちとおれの小さな旅だ。福島ラジオNIKKEI賞は非凡をちらつかせるレアリスタが本命。馬単⑤③⑤⑩⑩。中央CBC賞は好調の金子車団ウリウリ本命。馬単⑥⑦⑦⑩⑩。